

ホンダ学園 賛助会企業セミナー



2011年12月、校内企業セミナーが2日間にわたって開催されました。

ホンダ学園賛助会より計56社の企業担当者様にご参加いただき、業務内容や採用に関する説明、学生たちへ質疑応答の機会を提供していただきました。

昨年10月の就職キックオフを皮切りに、自動車整備科、自動車開発エンジニア科、国際自動車整備科1年生と、一級自動車整備研究科3年生の本格的な就職活動がスタートしています。厳しさをましている就職活動に備える為、昨年11月には例年行っている「企業研究会」に代わり「校外就



職力養成研修」を実施。ワークショップを通して「仕事」や「自分」というテーマについて考えてきました。

ほとんどの学生にとって就職活動は初めての経験ですが、自分が望んだ就職を勝ち取る為にも、時間をかけて準備を進めてきました。そして迎えた企業セミナーでは、真剣な表情で話を聞き、熱心にメモを取る学生や、積極的に質問する学生の姿も目立ちました。

トップセミナー

TOP SEMINAR

本田技研工業株式会社 常務執行役員

日本営業本部長 **峯川 尚** さん



2012年2月13日、本田技研工業株式会社より常務執行役員 日本営業本部長 峯川さんをお招きして、今年度のトップセミナーを開催いたしました。

自動車需要の低迷が続く中、国内では約7割が軽自動車などのスモールカーという現状において、メーカー間の競争が激しさを増しています。お客様の期待に応えるべくそれに向けた様々な施策を展開するホンダの現状についてお話していただきました。

軽自動車が遅れを取っていたホンダは、2011年末に新車を発表しました。独自

技術を搭載した新型軽自動車は、これまでに管理内化の強化を促進し、層強くなつた販売網に投入されていきます。

「これからのホンダにとって重要なのはサービスの役割」峯川さんはこのようにおっしゃっていました。

近年は自動車の保有年数が伸びており、自動車を購入されたお客様と接する機会は非常に少なくなっています。車検などの限られた機会でも来店されたお客様と接するサービスの役割は、お客様に



学生の質問に答える峯川さん

ホンダや販売店のファンであり続けていたために、大変重要なのです。

サービスはインターナショナルなど、独自の技術の活用もありませんが、サービスを担当する1人ひとりに大きな期待が寄せられています。本校でエンジニアを目指す学生の皆さんは特に、技術と知識を駆使してお客様の信頼を得ていかなければなりません。

「人に愛され信頼される技術者になる」という建学の精神を忘れずに、折に触れてマナーとマインドを磨いていきましょう。

海外研修プログラム 研修成果報告会



ニュージーランド研修 修了式

2011年12月、ニュージーランドのオークランド、オーストラリアのメルボルンにおいて、海外研修プログラムに参加した学生による研修成果発表会が行われ、約9ヶ月におよぶ海外研修を無事に修了した皆さんが日本へ帰国いたしました。

そして2012年1月26日、校内での研修成果発表会が行われました。ニュージーランドから戻ってきた国際自動車整備科の8名が、一足早く元気な姿を見せてくれました。出発前よりも成長したその姿からは、海外での生活経験によって精神的・人間的に成長してきたことを窺い知ることができます。

「コミュニケーションは全て英語という環境に身を置き、ホストファミリーと生活を共にしながら、現地ディーラーでは整備や接客もおこないました。大変なこともありましたが、研修をやり遂げたことは国際自動車整備科の皆さんにとって大きな自信となっているはず。



オーストラリア研修 修了式



校内での研修成果発表会

福祉講話

ホンダ太陽株式会社の元専務取締役である、鈴木利幸氏をお招きして、福祉講話を実施いたしました。

Hondaの基本理念である「人間尊重」とは「自立」「平等」「信頼」の考えから成り立っています。

車椅子を常用されている方のために、専用のスロープを構築するのではなく、全ての人が平等に使える形を構築するという考え方が必要である。先生は実例を挙げながら、「人間尊重」のキーワードに触れ、私たち1人ひとりに考える機会を与えて下さいました。



異動しました



長谷川 洋

3月1日付けで本田技術研究所 所長 長谷川洋 氏を退職いたしました。長谷川氏は、本田技術研究所 所長として、本田技術研究所の発展に貢献していただきました。長谷川氏の退職を惜しむ声が多く聞かれました。長谷川氏の退職を惜しむ声が多く聞かれました。長谷川氏の退職を惜しむ声が多く聞かれました。

退職しました



井村 修司

1月31日をもってHondaを退職いたしました。1972年に入社以来、独自の生産設備の開発や海外駐在での新工場設立など、物づくりに中心に幅広い分野にたずさわってまいりました。そして学園でのこの10年10ヶ月は私にとって新たなチャレンジであり、人づくりに関わることができ、多くの若者にHondaスピリットを伝えることができたことを幸せに思っています。

ここで皆さんに伝えたいことがあります。それは「常に夢と若さを持ち続けて欲しい」ということです。夢はわたしたちを動かす前向きな推進力であり、一生を通じて大きなパワーとなりうるものです。夢があるから、失敗を恐れずチャレンジを続けることができ、夢を実現するため障害を克服し奮い立たせ、周囲の人に働きかけます。それが若さの源泉です。

若くみずみずしい感性をもった皆さんこそ未来の原動力であり、今後の活躍を期待しております。最後になりましたが、皆様、永い間ありがとうございました。



金村 良二

この度、2012年1月12日をもって、定年退職となりました。金村 良二 氏です。昭和46年4月に、本田技研工業（現・本田技研工業）に入社し、国内二輪営業（大阪・九州）、HM本社日本営業本部、HMと色んな職種を経験し平成17年4月にHonda学園に赴任しました。その中でも、Honda学園での6年9ヶ月は自分にとって貴重な経験ばかりで、本田技研で経験した仕事の中でも一番印象に残る職場でありました。

在任中の学生課では、新規学生の募集活動や就職活動を通して、面接指導や就職のアドバイス等の仕事をさせて頂き、色々な体験や貴重な経験を得ることができ無事に定年を迎えられる事に、皆様に厚く御礼を申し上げます。

今後は、第二の人生に向かってHondaで学んだ「明るく」「楽しく」「元気よく」を忘れずに頑張っていきたいと思っております。

最後に、学生の皆様の今後の活躍と皆様のご健康、そしてHonda学園の益々の発展をお祈りいたします。

海外研修

2011年11月8日～14日の7日間、アメリカ海外研修を実施いたしました。異文化交流を通して人間的な視野の拡大やグローバ



2WAYミーティング

ルな視点を高めることを目標に、出発前、研修における自己テーマの設定や現地での英語による質問設定を行いロサンゼルスへ向かいました。

そして、現地スタッフの方々にご協力いただき、アメリカンホンダやホンダディーラーの訪問、アメリカンカルチャーという1日ショートホームステイなどを通して異文化に触れてまいりました。

アメリカンホンダでは、研究・開発スタッフとの交流を通して太陽光発電・燃料電池といった開発の話や、デザイナーの作業風景やCGを使ったモデリングを見せて頂いたり、貴重な体験をさせていただきました。

また現地ディーラーを訪問した際には、敷地やピットの広さに驚き、一日あたりの整備台数の多さから、日



ユニバーサルスタジオ

本との違いを目の当たりにしました。

学生からは「もっと話を聞いてみたい」「他の質問もしたい」という声もあり日本にいた頃は想像もできないほどに、異文化への興味が大きくなっているようでした。

現地スタッフの方々は学生の不慣れな英語の質問にも真剣に答えて下さり、自分の英語が伝わったことを喜んでいる学生もいました。



アメリカンホンダでの記念撮影

帰国後に行ったアンケートによると、アメリカンホンダや現地ディーラー訪問は、満足度がとても高く、予想以上に有意義な海外研修となりました。

バスケットボール部

3大会連覇達成

1月22日(日)「南関東ブロック専門学校バスケットボール冬季大会」が開催され、ホンダテクニカルカレッジ関東校のバスケットボール部が3大会連覇を達成しました。

今年度は、社会人チームとの試合に挑み、公式戦に向けたチーム作りをおこなってきました。2月には「ふじみ野市DownTownCup」、5月には「ふじみ野市バスケットボール協会杯」に出場。スピードも体格も上回るチームとの対戦によってウィークポイントを明確にし、チームワークを強化してきました。

強豪の多い南関東ブロックは来年も激戦が予想されます。今後もバスケット部の活躍にご期待ください。



メカニック部

全日本ロードレース選手権ピットサポート

2011年10月28・29日、鈴鹿サーキットで行われた「第43回MFJグランプリスーパーバイクレース」に、チーム「Honda浜友会浜松エスカルゴ」(久保山 正朗さん)が出場し、メカニック部の学生がピットサポートを行いました。チームはJSB1000クラスに出場し、レース1・レース2ともに完走しました。



自転車同好会

2011年度、自転車同好会の活動は、5月のGW「日本縦断キャンピングツーリング」にはじまり、夏休みは埼玉県から群馬県、長野県、岐阜県をまたぐ峠を走る「夏合宿キャンピングツーリング」、そして9月のMTBのダートレース「セルフディスカバリー王滝」、10月の「もてぎ8時間耐久」ではママチャリでサーキットを走りまわりました。

好きなもの同士が集まって、夢中になれる。これがクラブ・同好会のいいところです。



福祉施設を訪問しボランティアを体験する、「ボランティア体験授業」を実施いたしました。2011年11月8～12日の5日間にわたって、ふじみ野市内の福祉施設を訪問し、車椅子等の修理を手伝ったり、会話

ボランティア体験授業に参加



訪問した施設

- 社会福祉協議会
- ふじみの国際交流センター
- 大井デイサービスセンター
- 大井デイケアセンター

やゲームを通して施設を利用される方々と交流を図りました。社会福祉協議会をはじめ、各施設の職員の方々にご協力を頂き、日頃できない貴重な体験をすることができました。

11月20日、254花の会が行われました。254花の会は寮生を中心に行われているボランティア活動で、上福岡駅付近を通る国道254号線の中央分離帯の清掃を行い植物の苗を植えたりしています。

今回は春に向けてチューリップの球根を植えました。色とりどりのチューリップを出来る限りたくさんの方に見て頂けるよう、車から見やすい場所に、色が重複しないように工夫をしたり、1時間にわたり活動を行いました。



254花の会



球根を植える際「150mmくらいの間隔で、70mmくらいの深さで」というポイントを説明された学生の皆さんでしたが、規格を外れないようスケールで図ってみたい、冗談を交わしたり、活動を楽しんでいるようでした。

春はもう少し先ですが、チューリップを楽しみにお待ち下さい!



気仙沼港折地区に今も残る巨大な船

2012年1月13～15日、一級自動車整備研究科の学生4名が宮城県石巻市と気仙沼市で活動を行いました。真冬の活動となった今回、「寒さとの戦いだった」という学生の言葉から、東

北の厳しい寒さを想像することができません。さて、2011年3月より、自転車の修理から始まった支援活動は、今回で12回を数えます。そして、活動開始から、まもなく1年が過ぎようとしています。活動拠点となっていた避難所の方々は、仮設住宅へ全面移行されており、



修理の依頼はバイクが中心でした

1つひとつ回って修理の呼びかけを行いました。自転車修理は少なく、その代わりにバイクの修理が多かったそうです。バイクの修理では、海水に浸った影響からか、下回りの腐食が目立ちました。溶接を必要とする場合もあるそうで、今後の活動では装備の見直しが必要になるかもしれません。



一級自動車整備研究科の皆さん

学生による復興支援活動

東日本大震災で津波被害の大きかった宮城県石巻市、気仙沼市の避難所を拠点とし、自転車や自動車、発電機をはじめ、依頼された様々なモノの修理を行っています。

学生による東日本大震災復興支援活動